

①教職課程コアカリキュラム対応表(一覧)

教職課程コアカリキュラム対応表(一覧)

【中学校・高等学校】

<各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) 中学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
2-3	各教科の指導法(数学)	数学科教育法1 数学科教育法2 数学科教育法3 数学科教育法4		
4-5	各教科の指導法(理科)	理科教育法1 理科教育法2 理科教育法3 理科教育法4		
6-7	各教科の指導法(技術)	技術科教育法1 技術科教育法2 技術科教育法3 技術科教育法4		

<各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。) 高等学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
8	各教科の指導法(数学)	数学科教育法1 数学科教育法2		
9	各教科の指導法(理科)	理科教育法3 理科教育法4		
10	各教科の指導法(情報)	情報科教育法1 情報科教育法2		
11	各教科の指導法(工業)	工業科教育法1 工業科教育法2		

※ 中学校・高等学校「外国語(英語)」に係る事項は「外国語(英語)コアカリキュラム対応表」に記載すること。(本表には記載不要。)

<教育の基礎的理解に関する科目等>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
12	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理		
13	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門		
14	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度論		
15	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学		
16	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論		
17	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論		
18	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法		
19	総合的な学習(探究)の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		
20	特別活動の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		
21	教育の方法及び技術	教育方法論		
22	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論		
23	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法		
24	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導論		
25	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育とICT活用		
26	教育実習	教育実習事前指導 教育実習1	教育実習事前指導 教育実習1 教育実習2	教育実習事前指導 教育実習1 学校体験活動

大学名	大阪産業大学
学部・学科等名	情報デザイン学部情報システム学科 建築・環境デザイン学部建築・環境デザイン学科 システム工学部システム工学科

②教職課程コアカリキュラム対応表

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1) 当該教科の目標及び内容

一般目標: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標: 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
※中学校教諭及び高等学校教諭

(2) 当該教科の指導方法と授業設計

一般目標: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標: 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
※中学校教諭及び高等学校教諭

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	項目	(1)					(2)				
	到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	数学科教育法 1 (p.40~41)	1									
		2		○	○						
		3	○								
		4					○		○		
		5						○			
		6						○			
		7							○		
		8								○	
		9								○	
		10								○	
		11								○	
		12								○	
		13								○	
		14								○	
		15				○					○
	数学科教育法 2 (p.42~43)	1									
		2						○			
		3						○			
		4		○	○						
		5		○	○						
		6		○	○						
		7		○	○						
		8		○	○						
		9								○	
		10								○	
		11								○	
		12								○	
		13								○	
		14								○	
		15				○					○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		項目	(1)					(2)				
		到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回（シラバスのページ番号）	数学科教育法 3 (p.44~45)	1	○					○				
		2							○			
		3			○							
		4		○						○		
		5									○	
		6			○							
		7		○						○		
		8									○	
		9			○							
		10		○						○		
		11									○	
		12			○							
		13		○						○		
		14									○	
		15					○					○
	数学科教育法 4 (p.46~47)	1										
		2	○			○						
		3			○							
		4		○						○		
		5									○	
		6			○							
		7		○						○		
		8									○	
		9			○							
		10		○						○		
		11									○	
		12			○							
		13		○						○		
		14									○	
		15					○					○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1)当該教科の目標及び内容

一般目標: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標: 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

(2)当該教科の指導方法と授業設計

一般目標: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標: 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
 2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
 5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		項目	(1)					(2)				
		到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	理科教育法1	1	○									
		2		○								
		3								○		
		4		○								
		5		○		○					○	
		6		○		○					○	
		7			○							
		8									○	
		9	○									
		10		○								
		11		○		○					○	
		12		○		○					○	
		13		○		○					○	
		14									○	
		15										
	理科教育法2	1	○							○		
		2		○	○			○				○
		3		○		○					○	
		4		○		○					○	
		5		○		○					○	
		6		○		○					○	
		7					○	○		○		○
		8	○							○		
		9		○	○			○				○
		10		○		○					○	
		11		○		○					○	
		12		○		○					○	
		13		○		○					○	
		14		○		○					○	
		15					○	○		○		○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		項目	(1)					(2)				
		到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回（シラバスのページ番号）	理科教育法 3 (p.150-151)	1	○									
		2		○		○					○	
		3		○		○					○	
		4		○		○					○	
		5		○		○					○	
		6		○		○		○				
		7		○								
		8	○									
		9		○		○					○	
		10		○		○					○	
		11		○		○					○	
		12		○		○		○			○	
		13									○	
		14									○	
		15										
	理科教育法 4 (p.152-154)	1	○									
		2						○		○		
		3		○		○					○	
		4		○		○					○	
		5		○		○					○	
		6		○		○		○			○	
		7				○					○	
		8	○									
		9		○							○	
		10			○			○		○		○
		11		○		○					○	
		12		○		○					○	
		13		○		○					○	
		14		○		○					○	
		15					○	○		○		○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1)当該教科の目標及び内容

一般目標: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標: 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

(2)当該教科の指導方法と授業設計

一般目標: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標: 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
 2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
 5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		項目	(1)					(2)				
		到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	技術科教育法1	1	○					○				
		2				○						
		3				○						
		4				○						
		5				○						
		6	○			○						
		7	○			○						
		8				○						
		9		○					○	○		
		10		○					○	○		
		11		○					○	○		
		12		○					○	○		
		13					○					
		14					○					
		15					○					○
	技術科教育法2	1	○					○				
		2		○		○						
		3		○		○						
		4		○		○						
		5		○		○						
		6		○		○						
		7		○		○						
		8		○		○						
		9		○		○						
		10		○		○				○	○	
		11		○		○				○	○	
		12		○		○				○	○	
		13		○		○				○	○	
		14		○		○				○	○	
		15					○				○	

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		項目	(1)					(2)				
		到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回（シラバスのページ番号）	技術科教育法 3 (p.373-374)	1	○					○				
		2		○	○					○		
		3		○	○					○		
		4		○	○					○		
		5		○	○					○		
		6		○	○					○		
		7		○	○					○		
		8		○	○				○			
		9		○	○				○			
		10				○				○		
		11				○				○		
		12				○				○		
		13					○			○		
		14					○			○		
		15					○					○
	技術科教育法 4 (p.375-376)	1	○					○		○		
		2		○		○					○	○
		3		○		○					○	○
		4		○		○					○	○
		5		○		○					○	○
		6		○		○					○	○
		7		○		○					○	○
		8		○		○					○	○
		9		○		○					○	○
		10		○		○					○	○
		11		○		○					○	○
		12		○		○					○	○
		13		○		○			○		○	
		14		○		○			○		○	
		15			○		○					○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1) 当該教科の目標及び内容

一般目標: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標: 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
※中学校教諭及び高等学校教諭

(2) 当該教科の指導方法と授業設計

一般目標: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標: 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
※中学校教諭及び高等学校教諭

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		項目	(1)					(2)				
		到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	数学科教育法 1	1										
		2		○		○						
		3	○									
		4						○		○		
		5							○			
		6							○			
		7								○		
		8									○	
		9									○	
		10									○	
		11									○	
		12									○	
		13									○	
		14									○	
		15 (p.40-41)					○					○
	数学科教育法 2	1										
		2							○			
		3							○			
		4			○	○						
		5			○	○						
		6			○	○						
		7			○	○						
		8			○	○						
		9									○	
		10									○	
		11									○	
		12									○	
		13									○	
		14									○	
		15 (p.42-43)					○					○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1) 当該教科の目標及び内容

一般目標: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標: 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
※中学校教諭及び高等学校教諭

(2) 当該教科の指導方法と授業設計

一般目標: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標: 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
※中学校教諭及び高等学校教諭

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		項目	(1)					(2)				
		到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	理科教育法 3	1	○									
		2		○		○					○	
		3		○		○					○	
		4		○		○					○	
		5		○		○					○	
		6		○		○		○				
		7		○								
		8	○									
		9		○		○					○	
		10		○		○					○	
		11		○		○					○	
		12		○		○		○			○	
		13									○	
		14									○	
		15										
	理科教育法 4	1	○					○		○		
		2						○		○		
		3		○		○					○	
		4		○		○					○	
		5		○		○					○	
		6		○		○		○			○	
		7				○					○	
		8	○									
		9		○							○	
		10			○			○		○		○
		11		○		○					○	
		12		○		○					○	
		13		○		○					○	
		14		○		○					○	
		15					○	○		○		○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1)当該教科の目標及び内容

一般目標: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標: 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
 5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

(2)当該教科の指導方法と授業設計

一般目標: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標: 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
 2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
 5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
 ※中学校教諭及び高等学校教諭

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		項目	(1)					(2)				
		到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	情報科教育法1	1						○				
		2	○			○	○					
		3						○	○			
		4			○				○	○	○	○
		5		○	○	○	○					○
		6		○	○	○	○					○
		7	○	○	○			○	○	○	○	
		8		○	○	○	○					○
		9		○	○	○	○					○
		10		○	○	○	○					○
		11	○	○	○			○	○	○	○	
		12		○	○	○	○					○
		13		○	○	○	○		○			○
		14		○	○	○	○		○			○
		(p.106-107) 15	○	○	○			○	○	○	○	
	情報科教育法2	1		○	○	○	○		○			○
		2		○	○	○	○		○			○
		3		○	○	○	○		○			○
		4		○	○	○	○		○			○
		5		○	○	○	○		○			○
		6	○	○	○			○	○	○	○	
		7		○	○	○	○					○
		8		○	○	○	○		○			○
		9		○	○	○	○					○
		10		○	○	○	○		○			○
		11		○	○	○	○		○			○
		12		○	○	○	○		○			○
		13	○	○	○			○	○	○	○	
		14					○	○	○			○
		(p.108-109) 15	○			○	○					○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1) 当該教科の目標及び内容

一般目標: 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標: 1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
5) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
※中学校教諭及び高等学校教諭

(2) 当該教科の指導方法と授業設計

一般目標: 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標: 1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
2) 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
5) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
※中学校教諭及び高等学校教諭

各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	項目	(1)					(2)				
	到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	5)	1)	2)	3)	4)	5)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	工業科教育法 1 (p.261-263)	1	○				○				
		2		○			○				
		3		○					○		
		4		○					○		
		5				○					○
		6	○						○		
		7	○						○		
		8	○						○		
		9	○						○		
		10	○						○		
		11			○				○		
		12			○			○			
		13				○				○	
		14				○				○	
		15					○				○
	工業科教育法 2 (p.264-265)	1	○				○				
		2	○					○			
		3	○								○
		4	○								○
		5		○					○		
		6		○					○		
		7		○				○	○		
		8			○		○				
		9			○		○				
		10			○		○				
		11				○				○	
		12				○				○	
		13				○				○	
		14				○				○	
		15					○				○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

全体目標： 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程

一般目標: 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程及び特徴を理解する。

到達目標：1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。

2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程

一般目標： 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

到達目標: 1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。

2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。

3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

[illegible]

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

教育の方法及び技術

全体目標: 教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

(1)教育の方法論

一般目標: これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

到達目標: 1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。

2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。

3) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。

4) 学習評価の基礎的な考え方を理解している。

(2)教育の技術

一般目標: 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。

到達目標: 1) 話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。

2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。

[illegible]

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

生徒指導の理論及び方法

全体目標: 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

(1) 生徒指導の意義と原理

一般目標: 生徒指導の意義や原理を理解する。

到達目標: 1) 教育課程における生徒指導の位置付けを理解している。
2) 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。
3) 集団指導・個別指導の方法原理を理解している。
4) 生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違いを理解している。

(2) 児童及び生徒全体への指導

一般目標: すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。

到達目標: 1) 学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。
2) 基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。
3) 児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。

(3) 個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導

一般目標: 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

到達目標: 1) 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。
※高等学校教諭においては停学及び退学を含む。
2) 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。
3) インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。

生徒指導の理論及び方法	項目	(1)				(2)			(3)		
	到達目標／授業回	1)	2)	3)	4)	1)	2)	3)	1)	2)	3)
授業科目名及び授業回（シラバスのページ番号）	生徒指導・進路指導論	1	○	○	○	○					
		2	○	○							
		3						○			
		4			○	○					
		5				○	○		○		
		6									○
		7					○		○		
		8							○	○	
		9								○	
		10				○					
		11									
		12									
		13									
		14									
	(p.546-547)	15									

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

全体目標: 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。
 幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む)を身に付ける。

(1)教育相談の意義と理論

一般目標: 学校における教育相談の意義と理論を理解する。

到達目標: 1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。
 2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。

(2)教育相談の方法

一般目標: 教育相談を進める際に必要な基礎的な知識(カウンセリングに関する基礎的な事柄を含む)を理解する。

到達目標: 1) 幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。
 2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。
 3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。

(3)教育相談の展開

一般目標: 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。

到達目標: 1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。
 2) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。
 3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。
 4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。

教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		項目	(1)		(2)			(3)				
		到達目標／授業回	1)	2)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	4)	
授業科目名及び授業回（シラバスのページ番号）	教育相談の理論と方法 (p.548-549)	1	○									
		2			○	○	○					
		3			○		○					
		4			○			○			○	
		5		○								
		6		○								
		7		○								
		8		○		○	○					
		9		○								
		10			○					○		
		11			○					○		
		12			○					○		
		13			○					○		
		14									○	
		15									○	○
										</		

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②教職課程コアカリキュラム対応表

情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

全体目標: 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

(1)情報通信技術の活用の意義と理論

一般目標: 情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。

到達目標: 1) 社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術の活用の意義と在り方を理解している。
2) 特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用に応じた留意点を理解している。
3) ICT支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方を理解している。

(2)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進

一般目標: 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。

到達目標: 1) 育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む。)を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。
2) 学習履歴(スタディ・ログ)など教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報セキュリティの重要性について理解している。
3) 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解している。
4) 統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について理解している。

(3)児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法

一般目標: 児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。

到達目標: 1) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の時間(以下、「各教科等」という。)において、横断的に育成する情報活用能力(情報モラルを含む。)について、その内容を理解している。
2) 情報活用能力(情報モラルを含む。)について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。
3) 児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法を身に付けている。
※小学校教諭

情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	項目	(1)			(2)				(3)		
	到達目標／授業回	1)	2)	3)	1)	2)	3)	4)	1)	2)	3)
授業科目名及び授業回(シラバスのページ番号)	教育とICT活用	1	○		○			○			
		2			○	○	○	○			
		3		○	○		○			○	
		4			○				○	○	
		5		○	○	○	○				
		6	○		○		○				
		7		○	○	○	○		○	○	
		8	○		○			○	○	○	

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

③教職課程コアカリキュラム対応表(教育実習)

教育実習(学校インターンシップ(学校体験活動)を含む。)

確認欄

全体目標:

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。
一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

*教育実習の一部として学校インターンシップ(学校体験活動)を含む場合には、インターンシップ(学校体験活動)において、(2)、(3-1)もしくは(3-2)のうち、(3)4)の目標が達成されるよう留意するとともに、教育実習全体を通して全ての目標が遺漏なく達成されるようにすること。

(1)事前指導・事後指導に関する事項

一般目標:

事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

到達目標:

- 1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- 2) 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。

○

○

(2)観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項

一般目標:

幼児、児童および生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校(園)の幼児、児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。

到達目標:

- 1) 幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
- 2) 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
- 3) 教育実習校(園)の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
- 4) 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。

○

○

○

○

(3-1)学習指導及び学級経営に関する事項 ※小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭

一般目標:

大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。

到達目標:

- 1) 学習指導要領及び児童又は生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
- 2) 学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
- 3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。
- 4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わるができる。

○

○

○

○

(3-2)保育内容の指導及び学級経営に関する事項 ※幼稚園教諭

一般目標:

大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。

到達目標:

- 1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
- 2) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。
- 3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。
- 4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わるができる。